

母親や知り合いのおばさんたちと温泉旅行で素っ裸大 乱交する二人の青年

季節は爽やかで楽しい夏真っ盛りだ。しかしまだまだ夏の始まり。これからの夏の勢いや隆盛に胸弾む季節。ケンタはさっそく日焼けをしている。友人たちとスポーツをしていることがその理由だ。

Tシャツに膝まで丈の伸びた半ズボンがトレードマークになっている。

性格はやんちゃで好奇心旺盛。純粋だけど、最近芽生えた性欲に少し自分で戸惑っている。朝起きるとビンビンにオチンポの先っぽが膨れ上がっているんだもの。

この日はキャッチボールの後、友達とカラオケに行った。

自転車でひとっ走り。少し街のはずれの方にあるチェーン展開しているカラオケ屋だ。

ふと飲み放題のドリンクバーにジュースを汲みに行った帰り、ケンタはカラオケ室の入る場所を間違えてしまう。歌に夢中で部屋の位置をしっかりと把握していなかったのと、部屋番号の覚え間違いだ。

入ったのは2人の女性がいる場所。30代後半くらいの色気むんむんの女性だった。ケンタに気づいた女性2人は、一瞬目を丸くして驚いていたが、入ってきたのが日焼けの若い青年だと気づくとすぐに奇妙なほど色っぽい喜びの顔を浮かべ言った。

「ちょうどいいじゃない。私たち二人でちょっと寂しかったのよ。一緒に歌わないっ！！？」

「僕、友人と二人で来てるんですけど・・・・・・それでよければ・・・・」

「いいわよいいわよそんなの。みんなで楽しみましょうよ」

何かの流れだろうか。運命か。それをきっかけにケンタは女性二人と親密になった。

ケンタの友人の名前はアキト。女性二人はそれぞれアカネさん、アイさん。LINEを交換し、家族ぐるみの知り合いになるなんて不思議な出会

いになるものだなとケンタは思った。

LINEでやりとりする日々が続いた。

「何してるの？結構暇なんだけど」

「おばさんはどんな仕事しているの？」

「アキト君は女の人と付き合ったことはあるの？」

ふと掃除をしていたケンタのママが、ケンタに声をかける。休日の午後だった。

「LINEずっとしてるけど……」

「あのね実は……」

ケンタはいきさつをそのままママに話した。

「へえ……そんなお姉さんと知り合ったの……一緒に旅行でも行きたいわね」

ママは言った。

どことなく平穏ではあるが、起伏の少ない生活をしていたケンタ一家。

父親は仕事で目いっぱい家にいないことも多い。

「そうね．．．．私の友達のユウナさんとアキトくんと一緒にいかない？そのお姉さんたちと旅行．．．．」

その夜。ケンタは妙な気持ちでうずうずしていた。

旅行。何の変哲もない普通の実事だ。幼いころから家族でも友達との団体旅行でも行ってきた。

けどなんだか今回は少し違うような気がする。趣向が違う？何が違う？

考えてみても分からなかった。

けどケンタは自分が立派な年齢になることを強く自覚していた。

何かを想像する。胸がうずうずした。

すると．．．．．！！！！

びいんっ！！！！びんびんびんびんっ！！！！

ズボンをずり下げ、パンツも同様に。

裸で仰向けで天井をぼんやり見つめる。

おちんぼの先っぼからとろとろした液体が出てくるのがはっきりと分かった。

「うううっ！！！」

ケンタはうめき声をあげる。

体験版はここまでです。
